

令和5年度 第1回高根沢町総合戦略推進会議記録

1. 開催日時 : 令和5年7月21日(金) 10時30分～12時10分
2. 開催場所 : 高根沢町役場第1・2会議室
3. 会議の趣旨 : (1)第2期高根沢町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗報告  
(2)高根沢町地域経営計画2016後期計画の進捗報告

4. 出席者

(構成委員)

部門	所属	職名	氏名	備考
産業	高根沢町農業士会	会長	佐藤永倫	
産業	高根沢町経済懇話会	会長	束原正記	
官公庁	高根沢町議会	副議長	加藤章	
官公庁	高根沢町議会	まちづくり常任 委員会委員長	齋藤武男	
官公庁	高根沢町教育委員会	委員	齋藤君世	
学術	宇都宮大学地域デザイン科学部	准教授	佐藤栄治	欠席
金融	栃木銀行宝積寺支店	支店長	安達宏夫	
民間	高根沢町自治会連合会	会長	牧恒男	
民間	高根沢町人権擁護委員会	委員	永井弘美	
官公庁	高根沢町	町長	加藤公博	座長
官公庁	高根沢町企画課	課長	菊地房男	

(事務局)

高根沢町企画課	課長補佐	鈴木基郎	司会
	係長	菅谷昌孝	説明
	主任主事	田代真也	記録

## 5. 質疑応答内容

### (1) 第2期高根沢町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗報告 (質問・意見)

- 夏休み中に学童保育を利用している共稼ぎ家庭の子どもたちに対し、給食センターを利用した昼食の提供は行っているか。
- ⇒ 給食センターは夏休み中稼働を停止しているため、学童保育での提供はできない。
- ニュース番組でも、家事負担軽減や衛生面の観点から、学童保育における夏休み中の共稼ぎ家庭の子どもへの昼食の提供について取り上げられていた。子ども食堂の役割も果たしており、学童保育利用者以外の子どもも受け入れているとのこと。
- ⇒ 学校給食センターは小中学校の学校給食に特化した施設になっており、文科省の補助を受けているため、厚労省の管轄である学童保育に活用できるかどうかという問題があるが、子育てという部分では共通しているため、調査研究していく。施設の利用目的に多様性を持たせるにはまだまだハードルが高く難しい面があるが、課題を整理しながらより良いサービスを提供していく必要がある。
- 食料を十分に得ることができない貧困世帯の子どもが増加している。そういった子どもたちは町内ではどのくらいいるのか。
- ⇒ 具体的な数値は今すぐにはお示しできないが、町健康福祉課と社会福祉協議会が連携して、夏休みと冬休みの前にフードバンクを活用してお米等の食材の提供を行っていたことがある。
  
- 令和4年度の出生数は何人か。また、令和3年度の婚姻件数は何件か。
- ⇒ 190人台となり200人を割った。ただ、出生率は県内1位であり、他市町はもっと出生数が減少している。婚姻件数は127件となっている。
- 婚活イベントの宣伝により参加者を増やすとともに、カップルの成立、婚姻率の上昇に向けてさらなる取組を行っていただきたい。
- ⇒ 資料に掲載されている4組のカップルは、当日のイベントの中でマッチングしただけであり、追跡での調査はできない。回数を増やして参加者を増やしたとしても、追跡ができないため、結果が見えづらい。婚活イベント実施に当たっては、女性と円滑に会話できるように男性のみ事前研修を行ったほか、当日の司会進行をプロのアナウンサーにお願いしている。
  
- 他市町の子育て世代の方から、高根沢町の給食費減免や医療の取組がうらやましいという声をよく聞くようになった。これも、総合戦略の取組を進めてきた成果だと考えている。
- ⇒ 給食費については、昨年度から町独自に減免を実施してきたが、今年度は国の地方創生臨時交付金を充当して追加の減免を実施した。世の中の家計への負担や少子化のスピードが速くなっており、社会保障制度の1つとして、給食費の減免等の子育て施策にウェイトを置く必要があると考えている。
  
- 給食費の減免のような経済的支援の他に、保護者の精神的なケアも必要。保護者に寄り添って対応できる先生を育成することは、安心して子育てができる施策の推進にとって重要である。また、こどもみらい課にいる専門の相談員が現場に入って、家庭支援のアドバイスを増やしていただきたい。
- ⇒ こどもみらい課に子ども相談員を配置し、保育園や学校と連携して家庭への支援を行うとともに、他の機関とも連携しながら、お子さんのいる家庭だけでなく、様々な状況の家庭について、協議会を中心に支援を行っている。すべての家庭を把握できているわけではないので、小さな声を様々な機関から拾って情報共有しながら支援が行き届くよう進めている。今後、幼稚園・保育園の先生と町で情報共有の場を設け、話をする機会を増やしていく必要性はあると考えている。人材育成については、地域との連携を含めて取組を進めていかなければならない。
  
- 道の駅たかねざわ 元気あっぷむらについて、町内の生産者との農業体験で成果があったのであれば、いちご狩りなど体験作物などを増やして、元気あっぷで農業体験で収穫した作物を食する体験を追加するなど、プラスアルファの計画を取り入れてはいかがか。また、夏休みや盆踊り、花火大会など、地域密着のイベントを開催してはいかがか。
- ⇒ 元気あっぷむらは、リニューアルに伴い新しい指定管理者が管理運営している。施設としては、全国初となるグランピングのある道の駅としてテレビで全国放送されており、大きな宣伝効果を生んで

いる。しかし、新型コロナによる指定管理者の収支状況もあり、指定管理者が当初予定していた事業展開はできていない。指定管理者の経営の裁量もあり、町として強制することもできない。

- 元気あっぷむらのバリアフリー化がされていないことについて、なるべく早く対応いただきたい。
- ⇒ 検討しなければいけないことだと考えているが、お金のやりくりが問題となっている。一番のネックは、他の道の駅と比較して元気あっぷむらが町の規模に対して大きく、施設の修繕・維持管理に毎年億単位の費用がかかってしまうことである。

## (2) 高根沢町地域経営計画 2016 後期計画の進捗報告 (質問・意見)

- 新庁舎整備について、住民からの意見を求めるような取り組みはあるか。
- ⇒ パブリックコメントで意見をいただいている。また、検討委員会に住民代表の方も加わっており、そちらでも意見をいただいている。
- ロックサイドマーケットについて、まだまだコロナへの配慮が必要な状況ではあると思うが、今後どういった方向性で開催するのか。
- ⇒ 将来的にはコロナ前と同規模でロックサイドマーケットを復活させたいと考えている。ただ、大勢の人が集まるイベントであり、コロナ前と同様に宝積寺駅前での開催とした場合、感染が蔓延してしまう恐れがあるため、タイミングを見計らっている。
  
- 人・農地プランについて、町が音頭を取って住民の理解を得て、担い手不足・大型機械に対応した再度の土地改良事業を進めていただきたい。
- ⇒ 町としても、必要性を訴えて説明会をやってきた経緯があるが、土地改良の前に、地域の草刈りや泥上げができなくなっていることへの対応を求める声が多かった。まずは、今まで事務の手間で踏み出せなかった部分を、町産業課が事務局を代行することで解決していき、その上で地域の皆さんが顔を合わせて共同作業ができるようになれば、土地改良の必要性についての機運醸成につながるものと考えている。時間はかかると思うが、ご理解をいただくまでには多くのステップを踏まなければならないと感じている。

以 上